

コラム 活用が進む「透光防波柵」

透光防波柵は、寒地構造チームと民間企業との共同研究により開発され、平成 24 年 10 月に登録された特許権です。両面耐候処理され、耐衝撃性・耐候性に優れた透明なポリカーボネート板を用い、作用荷重に応じて経済的な板厚・形状寸法の折板形状とすることによって、大きな越波荷重にも耐えうる構造としたものです。ポリカーボネートの平板を採用した場合と比較すると、板厚を極端に薄くすることが可能となり、採光性に優れ景観にも配慮でき、コスト的にも従来のもより安価なものとなりました。

NETIS（新技術活用システム）への登録、土研新技術ショーケースでの講演、開発技術説明会での紹介等、多様な普及活動を展開してきました。

その結果、平成 26 年度末までに、北海道、福井県、和歌山県、鹿児島県など全国 27 件の防災事業に相次いで採用され、総延長 3.5km 延べ 8500 m²の施工実績を上げるなど、活用促進に向けた積極的な取り組みが成果を挙げてきています。



写真-1 性能確認実験、放水実験状況



写真-2 一般国道 36 号白老町における設置状況